

熟女が朝起きたら
オークに才力された話。



ああああんツツ
誰か助けて…!!

ウヘヘ
ニンゲンの
オンナだあ
オカしてしまえ

イヤあああ!!

私もう…ダメ
こんなの
死んじゃう
あんっあんっ!!

オレたちの子
産め産め
ウツヘツヘ

こんなつもりじゃ……
いったい何が
起こったというの

早く
元の世界に
戻してお願いっ

この女
なかなか
インランだな

もっと
食え
ウヘヘ

オレたちの
ザーメン
食え食え

んぐっ

あのとき
あんな誘惑に
乗らなければ
こんなことに
ならなかった……

ああッ
神様あ
助けてえ

しーぽー
しーぽー
しーぽー
しーぽー
しーぽー



熟女が朝起きたら
オークに才力された話。





ことの
はじまりは
スマホアフリ
だった



私は夫との
セックスレスで
ずっと悩み

出会い系で
知り合った男と
会話をするように
なった



私だって女！

女として
喜びを
感じたかったの

そうして
他の男と
仲良くなった
ある日

私は
その彼と猛烈に
会いたくなつて
連絡を取ったら
妙なことを言われ
たんです

変なことを言う
彼だと思いつつ
どこか気の利いた
ジョーダンにも
感じたので

遊びのつもりで
言ってみたんです

『エロイムエツサイム』と
10回言つて寝れば
ボクと会えるよと

ビ
ッ
ッ

すると二瞬
脳に電気が走った
ような感覚が来て
ビククリしのですが

特に気にもせず
その日は
就寝



目が覚めたら
そこは
別世界でした

不気味な
声に気づき
そちらに
目をやると

みたこともない
おぞましく
醜いバケモノに
囲まれて
いたんです



ウへへ
ニンゲンの
オシナだ

ひさびさの
エサだ

エサだ！
エサだ！
エサだ

いやああッ!!

ウへへ
この女
むちむち
気持ちよさそー

さっそく
私はやられた

バケモノたちと
目が合った瞬間に
服をはぎ取られ

人間の力をはるかに
超えた怪力で
私の抵抗は無に
等しく

ハッ
ハッ

ベロ
ベロ
ベロ
ベロ
ベロ
ベロ
ベロ
ベロ
ベロ
ベロ

ビクッ
ビクッ

まるで
オモチャで遊ぶ
子供のような惨劇が
はじまったのです



くわえろ
奥まで
くわえろお

このオンナ
結構イケるぜ
グヘヘエ

いやっいやあつ!!!
誰かつ...だれか
助けてえ!!!

グヘヘ
うるせえなあ
もつとオカして
黙らせてやるか



もはやそれは
無理でした

こんな場所で
叫んだところで
人なんていない

誰も助けなんて
来るはずも
なかったのです

ぶっ
ぶっ
ぶっ

ぶっ
ぶっ
ぶっ

ぶっ
ぶっ
ぶっ

ぶっ
ぶっ
ぶっ

夢...?

これは
何か悪い
夢に
違いない

だって
こんな訳の分からない
場所で

ん
あ
あ

みたこともない
バケモノ！
こんな
ありえない世界で
こんな辱めを受ける
なんて絶対に夢だわ
おい
オレにも
やらせてくれよ
ケツの穴も
空いてるだろ

ズ
ボ
ッ

ズ
ボ
ッ

ズ
ボ
ッ
ズ
ボ
ッ
ズ
ボ
ッ

まあ待て
先にオレが見つけた
んだから
オンナのマ○コ
終わってからだ

ゲヘヘ
ケチだな
オメエも

夢よ...そう
これは夢

夢なら早く
冷めてっ...お願いっ

タマシイ

私つたら
なぜ!?

こんなケダモノに
オカされてるのに
感じてしまっている
なんて…あんっあんっ

このニンゲン
オンナ
気持ちいいぞ
ガンガン
やっちまおー



グアアア あそ
へッソッ べる
へルル

やっぱり
これは現実！

ヤツらの
感触…ニオイ

それに…
アソコに
挿入れられてる
この感じ！

夢なんかじゃない
これは現実だわっ
ああんっ

グヘヘ
オレも出そうだ
いっぱい
出してくるわ
このオンアのマ○コに

グヘヘ
そいつはいい

オレたちの子を
産んでもらうぞ
グヘヘ



いやあつ!!
中に出さないで
いやああ!!

アウウウツ
出るぞおお!!

やめて
出さないでええ!!

私はもう
どうにでもなれと
いや..
どうにでもしてと

こんな人知を超えた
怪力のバケモノに
オモチャのように
オカされて

正直な気持ちは
そう思っていた

[illegible]

女の私が
全力で抵抗した
ところで
かなうはずも
ない...

そして
抵抗をしない
本当の理由は
そこじゃなくて

もっと
奥深くの
私自信の部分
だったの

私の
一番汚い部分なの

ウヘエ
じゃあ
オレ帰るワ

ウヘヘッ
あとは
オレたちで
遊んどくワ

そうそれは
『ビツチ』

私は夫以外の
男と関係を持つと
したこと

そして
こんなバケモノに
やられて
感じてしまっている
自分ということ

私はそれに
氣ついてしまったの…

交代だオレも
一発精子ブチこんで
ヤルよ

こんな最低な
女なんて
夫の前に出られない



ビツチな
私なんか夫の
ところへ戻る
資格なんてない

私なんか
誰にでもオカされて
しまえばいい

最低な
女だから
あんっ
あんっ
ああんッ!!

たん
たん
たん
たん
たん

オラオラ
もっと
腰ふれよオンナ

カヌいで
んじゃ
ネーゾ



だけど
自分でも
信じられないの

夫以外の
男にオカされて
こんなにも
感じてしまうなんて

おまけに
こんなバケモノ
にだって！

気持ち良すぎて
頭が
どうかなりそうなの

「アッ
アッ
アッ」

イヤだ！イヤだ！
思えば思うほど
アソコが暑くなって
体と腰が
ガタガタに
砕けそうになるの

このオンナ
いっぱい
子を産めそうだなア

何発もチ○ポ
ぶちこんで
オレたちの
子孫繁栄ダ

子孫ハンエイ
シンソハンエイ
グヒビ

やっぱり…
ダメだわ
繋がない

あなた
許して…
私はもう
そっちはには
戻れない

ビッチな
私に最適な
場所です

あ

本当に
ごめんなさい

あなた…あなたっ！
あんっああんっ！

4¹¹ 4¹¹

グへへ
このオンナ
オコきつて
マジにける

はあ
はあ
はあ

グへへ
オレタチの
オモチヤ
グヘツヘツヘ

足を開け
足をヒラケ
グッヒッヒ

ああんっ
奥まで
突いてえ
突いてえっ!

人間とケモノの
違いはなにか?

ゲッ
ゲッ
ゲッ

答えは
簡単だ

出して
さらば出ていける

「違いはない」

—ということだ
人間もバケモノも
同じ動物なのだ
ただそれだけなのだ

知性など
本能の前には
何の効力もないただの
ゴミクズでしかない

イク!
イッちやううう!!

人間は
もつともつと本能で
生きるべきなのだ

おわり









































